

## ねぎ

### ○稲刈り後の病虫害防除について

#### ◎べと・さび病

今年べと・さび病が多発した（梅雨時期）圃場の周辺では再発する可能性があります。

気温が徐々に涼しくなると、病害が発生しやすい条件となりますのでご注意ください。

#### ◎黒斑・葉枯病（黄色斑紋病斑（マダラ模様））

葉先枯れや病害痕、虫の食害痕等に黒斑・葉枯病が発生しています。

気温の低下と共に、葉枯病は黄色斑紋病斑

（マダラ模様）になるので防除が必要です。

また、収穫遅れが発生を助長します。

#### ◎ネギアザミウマ

7 / 下～8 / 上の干ばつ・高温で多発傾向となっています。

今後冷涼になれば発生は減少するものの、被害はなくなりません。

#### 【防除ポイント】

- ・定期的な薬剤散布（7～10日間隔）
- ・粒剤の併用
- ・同系統薬剤の連続使用を避ける
- ・異系統薬剤の混合散布

## 山うど

### ○今後の作業について

#### 茎葉の刈り取り

- ・茎葉の刈り取りは低温に遭遇し、茎葉が十分黄化して茎が空洞化した頃に茎葉の刈り取り

作業を行って下さい。枯れ上がりが遅いほど休眠覚醒までに時間を要するため注意が必要です。また、11月下旬頃からの株の掘り取り時には、土を落とし、霜害に遭わないようその日の内に搬出してください。搬出後は、ジベレリンの効果を上げるため、根株の土を洗い流し、株が白くなる程度乾かします。

## みょうが

### ○敷きわらの確保について

次年度用の敷きわらの確保は10 aあたり水田30 a分を目安に行いましょう。

## アスパラガス

### ○株肥大の促進について

促成アスパラでは、株養成の終盤になってき

ました。

株の肥大を促進していくために、亜リン酸資材の散布を行なっていきましょう。

P S ダッシュMEネオやエレマックス赤などを1,000倍に薄めて散布してください。

## きゃべつ

### ○きゃべつの新規作付けについて

きゃべつは重量野菜ではありますが、作業日数が少なく、収穫調整作業も容易に行えます。

兼業農家でも無理なく作業ができる10 a程度であれば作付け可能だと思います。また、前に作付けされていた経験者の方もぜひ作付けをお願い致します。

次年度、初夏穫りきゃべつの作付けにチャレンジしたい方は営農企画課までご連絡ください。

## 能代市・藤里町の 補助事業

### ○補助事業を活用して農機購入をお考えの方へ

次年度の市町の事業等を利用して購入したい機械等がありましたら、遅くとも10月末までJA農機課又は市町へ問い合わせして下さい。